

自殺に対する誤解や偏見は 自殺予防を妨げます

9月10日～16日は自殺予防週間です

9月10日の世界自殺予防デーにちなんで、毎年9月10日から一週間は自殺予防週間となっています。

わが国の自殺者数は平成10年度から急激に増え、平成23年までは毎年3万人を超えていました。平成24年度には14年ぶりに3万人を切りましたが、それでも交通事故死者数の7～8倍の2万8千人もたくさんの命が失われています。

自殺者の多くは、「うつ病」などの精神疾患や癌など重い病に罹患しています。「うつ病」をはじめとする精神疾患は、今では癌、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4大疾病に加え、5大疾病の1つとなっています。生涯を通じて15人に1人は精神疾患にかかるといわれています。つまり、精神疾患は、糖尿病や高血圧と同じで誰でもかかり得るものなのです。うつ病や抑うつ状態になったら、ゆっくり休

み、専門医（精神科医）と相談する必要があります。「うつ病」などの精神疾患は、早期の適切な治療により回復も早くなります。

ところが、精神疾患を患う人や自殺に傾いていく人に対する誤解や偏見は、まだまだ地域社会にはびこっています。そのことが、支援を必要とする人が専門医の治療を受けようとする気持ちや削いでしまう原因となっています。精神疾患を患う人や自殺に傾いていく人のことを正しく理解し、支援しなければなりません。

今年の世界自殺予防デーの国際標語は、「不名誉のそりしこそが自殺予防の大きな妨げ」です。自殺への誤解や偏見こそが自殺予防を妨げているとの認識からこの標語が選ばれました。

家族や同僚など、あなたの周りの人の様子がいとも違つと感じたときや、借金・失業・身

〈お問い合わせ〉

阿蘇保健所
TEL0967(32)0535
役場 住民福祉課
TEL(62)9195

近な人との別れなど大きな変化があったとき、「眠れている?」「何か悩みがあるのでは?」などと温かく声をかけましょう。声かけは、悩んでいる人に安心感を与え、悩みを相談してみようかと思いききかけをつくる大切なアプローチとなります。もし、あなたが今、つらい思いや悲しみを抱えているとしたら、どうか一人で悩むよりまず相談を。

【こころの悩み相談窓口】

熊本精神保健福祉センター
TEL096(3886)1166
社会福祉法人熊本いのちの電話
TEL096(353)4343
※毎月10日はフリーダイヤル
0120(738)556
(社)熊本県精神保健福祉協会
「熊本こころの電話」
TEL096(285)6688

「コミュニティ・スクール」

設立に向けての実践・研究を国から受託

7月29日、「第1回南阿蘇村コミュニティ・スクール推進委員会」を長陽庁舎二階会議室で開催しました。

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者、そして地域の皆さんがともに知恵を出し合い、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める取り組みです。学校から地域へ、また地域から学校への行き来を活性化させ、それらの活動を、学校運営と地域連携等に反映させることができます。

本村では、三校区（白水・久木野・長陽）を国に申請。長陽校区が認可され、6月14日に文部科学省と契約を締結しました。

6月17日には、第1回目の会議を開催し、立野靖雄さん（立野区）を推進委員長に推挙し、有識者や地域代表の方、長陽中学校校長、南阿蘇西小学校校長など総勢16人で組織した皆さんで今後2年間、長陽校区のコミュニティ・スクール設立に向けて調査・研

究を進めていきます。

また、第2回目の会議においては、長陽中、南阿蘇西小における学校と家庭の連携や、学校と地域連携の現状、家庭・学校・地域で抱えているさまざまな問題点などが提起され、活発な議論がなされました。

推進会議は、年に5回程度計画されており、先進地研修を含め、回を重ねるごとに南阿蘇型のコミュニティ・スクールの形成にむけて、実践・研究を重ねていきます。



さまざまな議論がなされたコミュニティ・スクール推進委員会